



Title	研究所をとりまく状況
Author(s)	井上, 久遠
Citation	電子科学研究, 5
Issue Date	1998-01
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/24400">http://hdl.handle.net/2115/24400</a>
Type	bulletin (article)
File Information	5_Kantou.pdf



[Instructions for use](#)

## 研究所をとりまく状況

井上 久遠

第2次大戦後50年を経過して、日本の社会もようやく大きく変革する必要にせまられている。国立大学も例外ではなく、その大きな波にさらされている。「科学技術基本法」が制定され、日本は将来に向けて科学技術立国を目指すことになり、科学技術の基礎の一端を担うものとして大学の附置研究所の役割はますます重要になってきている。その一方で、行財政改革が進行中であり、それに伴う制度の大幅な見直し、予算面の緊縮化などの多くの問題に直面している。電子科学研究所でも、変革に遅れることなく適切に対応すると共に、これまで以上の緊張感をもって基礎研究に取り組む必要がある。世界をリードするような研究成果の数々を、当研究所からこれまで以上に生み出すことが期待されている。そのためには、いたずらに論文の数に振り回されることなく腰を落ち着けて、ますますレベルの高い研究に取り組む必要があろう。

平成4年4月に、改組により電子科学研究所が新たに発足してから、毎年1回、この「電子科学研究」を刊行している。研究所で得られた研究成果は、それぞれに関係する学術論文誌、あるいは学会で発表しているの、「電子科学研究」は少しく異なった趣旨で出版している。まず、毎号、4つある研究部門の中の1つをとりあげて、その研究内容を平易に解説・紹介する。次に、毎年秋に開催している研究所の「研究発表会」における、各研究分野の研究発表の要旨を記載している。この場では、北大の他部局の方も含めて他研究分野の研究者にも理解できるような、包括的で平易な発表をすることを心がけている。「研究発表会」は、研究所内の専門の異なる研究者間で、批判も含めて相互理解を深めることも目的だからである。その結果として、いろいろな形のユニークな共同研究の芽が生まれることを期待している。

この小冊子が、研究所の研究活動を理解していただくために少しでも役立つことを願うものである。